



Sister  
Angel

天使のいけい12月

EMIRI FANBOOK

FOR ADULTS

# #1 悔想

KAISOU

それは、幼い頃のこと。  
まだ「お兄ちゃん」と  
ちゃんと言えないくらい  
子供だった日のこと。

お兄いとふたり、何も考えずに、ただ  
仲の良い兄妹でいられた  
最後の日のこと。

男の人全てを嫌いになった最初の日の出来事。



え？  
お兄いが？

うん、そうなんだ。  
君の「お兄さん」が  
この車に乗っていてね。  
どうも身体の調子が  
悪いらしいんだ。  
それで君に来て欲しいと  
言ってるんだけど…



うにゅっ♪  
お兄い…

…あれ？  
お兄い  
いないよ  
ね…



ああ、スカートが  
破めちゃったねえ。  
もう恥ずかしくて  
外を歩けないなあ

お兄い、  
どこっつ？



ほらほら。  
あきらめて大人しく  
したほうがいいよ！？



お兄い！



ああ、それ  
俺のこと。  
年齢的には君より  
「お兄さん」だよ？

にゅっ♪



わっ...  
も...やあ...っ  
おうちに...  
おうちに...  
帰してよお...

ひ...ひ...ひ...

かき...  
やあ...  
しゅ...  
はっ...  
はっ...

大人しくしてれば  
すぐに終わるよ?

だーめ!  
まだ俺はぜんぜん  
満足してないからね



おウチには  
帰れないかも  
知れないけどね

まあ、  
もっとも



小学二年の夏、  
同じくらしい年の  
女の子たちが連続して  
失踪するという  
事件が起きていた。

でも、それが  
自分の上に  
降りかかって

残酷な現実を直視する時に  
幼い心はそこを逃げ出して  
与えられる快樂のままに  
世界を淫夢に塗り潰した。



んっ…いいぞ…  
その調子だ…  
ふふふ…っ

そう…そうだ…  
もっど…先のほうも  
舌を絡めて…



さあ…もつと  
咽喉の奥まで  
深く飲み込んで  
紙めるんだよ

先っちょにあふれて  
きた液とか…全部  
紙め取るんだぞ？



うわ、もう指が  
ズッポリ入るよ？  
信じられないくらい  
悪い子だね、君は

おおっ！  
いいっ！  
いいよっ！  
すごいな…  
まだ入り口なのに  
すっげーヌルヌルで  
ヒクヒク俺の指を  
締め付けてくる  
こりや膣内が  
柔しみなな！



それにしても  
既に大洪水か

小●生でコレって  
めちやくちや淫乱  
だよなあ？

なん…で…?

からだ…うごかない…よ…お

ちから…はいんない…

じゃあそろそろ俺のほうも楽しませてもらおうかな

よ…っと。

あ…

あ…

ほらほら。見えるだろ?

この大きい俺のが君の中をズボズボかき回すんだよ?

ぐわん

こんな風に…ね!

トヤッ!

おや…あ?

ち…ちがう…もん

待ちきれないの?

ここをもうこんなに敏感にして…

「違わない」だろう? ほうら、カリでここのお豆を擦られるたびに、じゅくじゅくおいしいお汁が出てきてるねえ

なんだか…ふわふわして…

君のカラダが待ちきれずにわはー食べて食べてって俺におねだりしてるんだよ? いやらしくて悪い子なんだ。本当の君は。

あたま…ぼうつとしてきて…

そ…なの…?



全部…飲んだね、  
いい子だ。  
ごほうびに、思い切り  
気持ちよくしてやる。

もちろん。  
自分で…ん…  
ちゅば…わから…  
ない…なら…んっ…  
身体に…わからせて…  
あげ…るよ…

※ノドを触ってるのは  
ちゃんと飲み込んだか  
確認するため。

ゆっくりと  
バラしてやるよ  
どっちにしても  
天国行きは  
間違いないさ

気持ちよく…  
何度も何度も  
イキまくって  
もう…何も  
考えられなく  
なったあとで



しかも…  
悦楽に溺れる  
その顔がまた  
たまらない。

でも…  
ほんとうに君は  
いやらしい身体を  
しているね…

そう…なの？

ああ。  
バラすのが惜しくなった。  
女の子なんて…時間をかけて  
じっくりと…時間をかけて  
味あわせてもらおうよ？



まだ中には  
挿れてないし  
けど、十分に  
気持ちいいだろ?

まだ中に挿れても居ないのに、  
内ヒダが期待に震えて  
びくびくしているのが  
伝わってきているよ?

はら...はらっ!  
表面をこすってるだけで、  
どんどんえっちなおっゆが  
溢れてきているねえ。

中に入れたらもっともっと  
気持ちよくなれるんだよ?

ふあっ!  
ふあっ!  
びくびく



どう?  
入れて欲しい?  
欲しいだろ?

君みたいなの  
小さな子の膣はね、  
そのままだと  
狭すぎて、

クスリを入れても  
いきなりは...

あんまり良くも  
ないんだよ。  
キツすぎて痛い  
だけだしね。

でも、一度イッた直後は  
狭くてぬかるんで熱くて  
きゆうきゆうと搾ってきて  
腰が抜けそうになる。

んっ  
んっ



ほら、やっぱり  
君の尿道口も  
ぱっくりお口を  
あけている。

この薬には実は  
利尿効果もあるんだ。

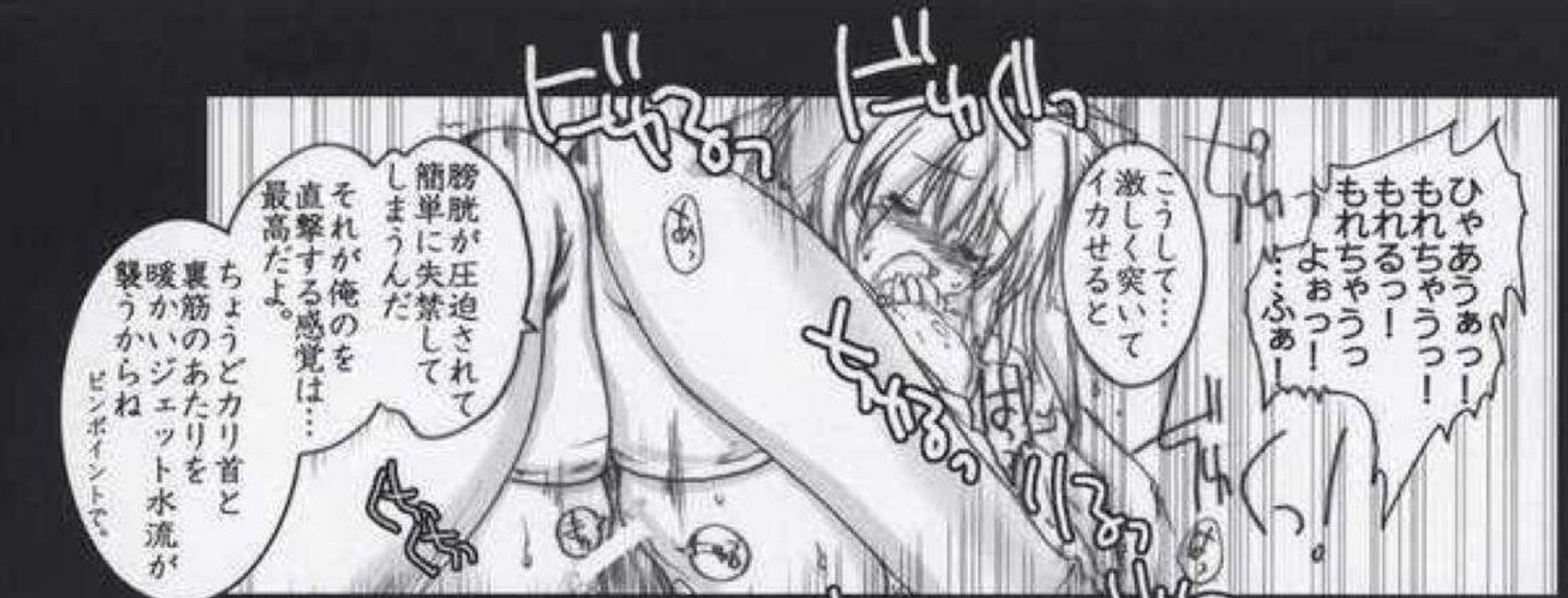
その分薬が抜けるのも  
早いけど...



それにさ、素股だと  
他にも楽しみは  
あるからね。

だから最初はこのまま  
素股でイカせてやるよ。  
そうしたらすぐに...  
きみの処女膣を、  
俺のこいつでぶち抜いて  
あげるからね。





ひゃあうあつ!!  
もれちゃうっ!!  
もれちゃうっ!!  
よおっ!!  
ふあー

こうして...  
激しく突いて  
イカせると

勝腕が圧迫されて  
簡単に失禁して  
しまうんだ  
それが俺のを  
直撃する感覚は...  
最高だよ。

ちようどカリ首と  
裏筋のあたりを  
暖かいジェット水流が  
襲うからね  
ピンポイントで



君ももう...  
そろそろ  
...かな?

らめえっ!!  
もう...ふや...  
わかんあひっ



くくっ...  
それじゃあこの  
可愛いお豆を  
食べてあげるよ

んじやあああ...





さすがに...  
放心状態か...

ヒク...



それじゃあ  
遠慮なく

貫通式と  
いくかな  
...と

痛っ！

裂け...ちや...

お兄いっ！  
助けてえ...っ！

ふ...ん？



叫んでも  
無駄だよ？

それにね...  
お兄ちゃんだって  
いざれきつと君に  
同じことをする。

男っていうのはね、  
みんなそういう  
生き物なんだよ？

そのとき  
こころのおくで  
なにかの  
こわれるおとが  
した

ねえ…令ちゃん…

何か今…変な叫び声  
聴こえなかった？

最近物騒だしねえ  
少女略取も多いし…

由乃なんか特に  
気をつけなきゃ  
だめだよ？  
かわいいんだから

もーっ、  
茶化さないですよ

茶化してないって。

由乃はいつでも  
このお姉さまが  
守ってあげるから  
安心だ…って…

令ちゃん…その車…

これって…まさか…  
ちよっと！  
あんたそこで  
何してるのよっ！

由乃っ！  
携帯で警察呼んで！  
早く！

そして。  
現実の終わりはあっけなく訪れ。  
後には悪夢だけが残される。



—その後、犯人はすぐに逮捕、起訴された。

裁判の結果が気がかりだったけど、  
犯人はあっけなく取調べ中に自殺した。  
凶器は警察で出された店屋物の箸だったそうだ。  
メガネを外したかと思うと、カツ丼の割り箸で胸を一突き。  
半ば信じがたい話だが、本当のことらしい。

犯人の死体は、親族らしい金髪の女性が引き取ったという。  
アタシが知っているのは、そこまで。

事件は意外なほどまったく報道されず、  
やがてすぐに忘れ去られた。

事件の後、変わってしまった事は多い。  
まず、アタシが男性恐怖症になったこと。

しばらくは学校にも行けなくなり、やがて  
カトリック系の女子校に転校することになった。  
それでも、だんだんとそれは収まって、  
高校に進学する頃には共学校を志望できる  
程度にはなった。

両親は、アタシがまだ処女であったことに安堵し、  
次に塞ぎこむ長女を腫れ物に触るように扱い始めた。  
残業や出張を多く入れるようになったのも、  
もしかしたら家に居辛かったからかもしれない。

お兄いはアタシに徹底的に嫌われるようになり、  
やがて向こうも妹を嫌うようになった。  
今思えば、男性恐怖症のあおりだったのだろう。

だからアタシは、言い続けた。  
「お兄いなんて死んじゃえ！」と。

「先輩のこと、本気でスキじゃないくせに！」  
と言わせたのは心の奥深くに刻み付けられた  
男と言う生き物全てについての不信感。

でも、それは、間違っていたのかも、しれない

アタシはいま、迷っている—

次第に近づいてくる  
甲高いサイレンの音。  
喧騒。あわただしい  
誰かの叫び声。悲鳴。

でも、  
そんなものはもう

意味は無くなり  
聞こえもしない

飛び降り？  
どこから…  
担架来た  
手貸して！

透んだ水面を  
犯してゆく  
血の紅赤朱。

赤く染まった  
先輩のリボン

14

そして…

動かない、  
あいつの軀…。

う…そ…

お兄い……っ!!

自分のあげた  
悲痛な叫びを

どこか遠くで  
聴いているような  
そんな——  
気がした。

カヤ

お兄い…  
まだ…起きてる？

話したいコト、  
あるんだけど…

あと、話さなきゃ…  
いけないコトも…

入って…  
いい？



恵美梨が部屋に忍んできたのは、  
俺が退院した、その夜だった……。



思美梨の言葉は...  
 確かに...  
 思美梨の言葉は...



心からスキじゃなかった...  
 一番に怒り降ってきた...  
 思美梨の言葉は...  
 確かに...  
 思美梨の言葉は...  
 確かに...  
 思美梨の言葉は...  
 確かに...  
 思美梨の言葉は...  
 確かに...

たたごとく、一度死んで(?) 思美梨を含め 家族連中を  
 激しく傷つけたのだ。

ここで 真実を告げて、さらに思美梨を傷つけたコトは  
 許さぬいなにかがあるように感じて。

— けれど。

もししたら、おれにこの「スキ」、そして依存という行為は  
 思美梨にこの「スキ」と、さして違うモノではないような  
 — 感じがあった。

もししたら、うわべだけ、思美梨の言葉を否定するコトに、  
 どれほどの意味があるというのか。

だからおれは、この言葉を受け容れた —

...許してくれるのか？  
 お前の大事な  
 先輩を奪った、俺を...

...うん...

心の錯がほとけ、  
 遙かな過去の呪縛は  
 嘘のまじり道として。  
 あつしは、裸の  
 恵美梨だけが残る...



#2 契 ~CHIGIRI~











天使のしない12月

EMIRI FANBOOK

Presented by ARUKU DENPATOU NO KAI

Be Continued to NEXT chapter "E.M.R" →